

## 平成三十年第二回定例会 提案理由説明書

平成三十年第二回定例県議会の開会にあたり、県政諸般の報告を申し上げ、あわせて今回提出しました諸議案について説明申し上げます。

### 一 県政諸般の報告

先月、世界十六カ国・十七地域から温泉地のリーダー等約百人をお迎えし、国内温泉自治体、関係団体等からも千人を超える多数のご参加をいただいて、世界温泉地サミットを別府市で開催しました。世界初の開催でしたが、おかげさまで、盛大かつ実り多い国際会議になりました。

「観光」「医療・健康・美容」「エネルギー」の各分野において、それぞれの地域で育んできた温泉資源の活用事例等を報告するとともに、温泉の新たな可能性について議論した後、サミット宣言としてとりまとめたところです。

本サミットの開催を契機として、温泉の活用がさらに広がり、それぞれの温泉地における持続可能な地域づくりにつながっていくなど、今後の成果が大いに期待できます。

開催にあたり、国をはじめ関係機関のご支援と多くの県民の皆様のご協力をいただきました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

#### (1) 災害からの復旧・復興について

さて、二ヶ月前、中津市耶馬溪町において、突如、大規模な土砂災害が発生し、六名の方々が犠牲となりました。改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

県としましても、市と連携し、被災者の生活再建と被災地の復旧・復興に全力で取り組んでまいります。

さらなる土砂崩落による被害拡大が心配されましたので、出水期に間に合わせるべく、大型土のうを設置したり地下水を抜くなどの応急対策工事を取り急ぎ実施し、先日作業を終えたところです。引き続き、二十四時間体制で現場の監視・観測を行いながら、専門機関の協力の下、進めている発生原因の解明を急ぎ、抜本的な対策に移行してまいります。

そこで、一日も早く本復旧工事に着手できるよう、今議会に工事費二十億円の補正予算を提案したところです。併せて、県内全域の土砂災害警戒区域におけるハザードマップの作成を加速するため、市町村を支援する経費も計上し、平成三十二年度までの完成を目指します。

本県は、昨年も九州北部豪雨や台風第十八号等の災害により、県内各地が大きな被害を被りました。大肥川や津久見川における改良復旧など、いずれの地域でも早期復興に向けて、急ぎ対策を進めているところです。

中でも、通勤・通学や観光客の入り込みに欠かせないJR線の復旧については、大変ご心配をおかけしておりますが、来月十四日に、久大本線の運行が再開されるとお聞きしています。夏の観光シーズンに何とか間に合っほつしているところです。県とし

ても、福岡方面からの誘客など、沿線の観光振興に積極的に取り組んでまいります。

もうひとつの日田彦山線につきましても、運行再開に向けて動き始めています。JRや地元市町村等関係機関による復旧会議を設置して、具体的な復旧方策や継続運行に向けた議論を進めており、できるだけ早く方向性をまとめ、県民の皆さんにお示ししたいと思っております。

これから、本格的な梅雨・台風時期を迎えます。市町村等関係機関と連携を密にし、土砂災害警戒区域の点検等、災害への備えにしっかりと取り組んでまいります。

## (2) 大分県版地方創生の加速前進

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、国レベルでは、二千五十三年には一億人を割り込み、今世紀末には六千万人を下回ると言われています。去る三月末には、同研究所による地域別の将来推計人口が公表されましたが、本県でも、二千三十五年頃に百万人を切り、このまま手を打たずに放置すると、今世紀末には四十六万人程度になることが想定されます。

人口減対策には、子どもを産み育てやすい環境づくりが欠かせません。例えば、女性の社会進出が進んできた社会構造の変化を捉え、保育所の整備や保育士人材の確保を進めており、今年四月の待機児童は、目標のゼロには至りませんでした。十三人と、昨年の五百五人を大幅に下回ることができました。

今、地域を支えていただいている皆さんに末長く元気に暮らしていただくことも大切です。健康寿命日本一を目指して、地域包括ケアシステムへの取組も積極的に進めています。平成二十八年度末の要介護認定率十八・〇％は、取組を始めた五年前に比べ二・一ポイント減少しました。全国的には、むしろ認定率が上昇している中、本県は減少幅が全国トップとなりました。

また、人口の転出抑制と転入促進を後押しするため、企業誘致を戦略的に行い、魅力ある仕事を呼び込んでいます。昨年度、過去最多となる五十五件の企業誘致がありました。姫島村や玖珠町など、これまで誘致実績が少なかった地域にも進出が相次いだことは何よりでした。

これらをはじめ、人・仕事・地域の各分野におけるポテンシャル向上の甲斐あって、近年、移住者数も順調に増えています。昨年度は、過去最多の千八十四人の方々に移住していただきました。このうち、約七百人の方々が四十歳未満の若い世代であり、頼もしく思っているところです。

地方創生は息の長い課題ですが、当面の人口減少カーブを緩やかにできるよう、これからも知恵を出し、チャレンジを続け、成果をさらに積み重ねていきます。

## (3) 文化・スポーツイベントを通じた観光振興

地方創生を前に進めるためには、本県の魅力を大いに発信して、訪れる人を増やし、観光振興につなげることも大切です。

今年から、先ほどの世界温泉地サミットをはじめ、文化・スポーツイベントが目白押しであり、チャンスが訪れています。

六郷満山開山千三百年祭は、年間通じて様々な行事が行われており、峯入行など非日常の神仏習合文化の体感が人気を博しています。先月には、国東半島の文化・伝統を語るストーリー『鬼が仏になった里「くにさき」』が日本遺産に認定され、六郷満山の魅力が一層高まっており、人々に幸せを届けてくれる鬼との出会いを求めて、来訪者の拡大が期待されます。

そして、いよいよ秋には、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が控えます。現在、「県民総参加」「新しい出会い、新たな発見」「地域をつくり、人を育てる」の三つの基本方針のもと、多くの県民の皆さんが、ふるさとの文化を見つめ直し、議論を重ね、新たなチャレンジに向けて準備を進めています。文化祭を通じ、大分の素晴らしい芸術文化を全国に発信するために奔走いただいておりますことに深く感謝いたします。

オープニングステージでは、県出身のお二人が脚本と演出を手掛けます。公募により集まった三歳から八十二歳までの皆さんが、日々練習を重ね頑張っています。

「県民総参加」、今回の文化祭では、県内を地勢や歴史・文化などの特性を踏まえて五つのブロックに分け、全地域でテーマを設けて事業を実施していただきます。

併せて、文化祭参加者が、芸術文化をテーマに、県内各地を巡る新たな観光スタイル「カルチャーツーリズム」も展開します。

本番まで残された時間が少なくなってきました。一層機運を盛り上げ、しっかりと準備してまいります。

スポーツでは、来年のラグビーワールドカップです。先週、その関係で、ラグビー日本代表戦が大分銀行ドームで開催され、大分県のラグビー史上初、二万六千人の観客が迫力ある試合を楽しみました。

県では、この試合をラグビーワールドカップ本番のシミュレーションの絶好の機会として捉え、観客輸送や交通規制等に取り組みました。しっかりと検証して、準備に活かしていきたいと思っています。

また、嬉しいことに、別府市と大分市が公認キャンプ地に内定し、ニュージーランドやオーストラリア、フィジー等六チームが滞在することになりました。

大会期間中は、これらチーム関係者はもとより、海外からの観戦客、報道関係者など多くの方々の長期滞在が想定されます。宿泊場所の確保や大分ならではのおもてなしなど、あらゆる面から準備を怠りなく進めてまいります。

## 二 提出議案の説明

次に、提出しました諸議案の主なものについて、その内容を説明申し上げます。

第七十五号議案 おおいた動物愛護センターの設置及び管理に関する条例の制定につきましては、動物の愛護及び適正な飼養に関する普及啓発を図るとともに、人と動物が交流できる場を提供するため、おおいた動物愛護センターを設置するものであります。

第八十号議案 大分県プレジャーボート等の係留保管の適正化に関する条例の制定につきましては、プレジャーボート等の係留保管の適正化を図り、県民の生活の安全の保持及び良好な生活環境の保全を推進するとともに、海洋性レクリエーション活動の健全な発展に資するため、条例を制定するものであります。

第八十四号議案 大分県営体育施設の設置及び管理に関する条例等の一部改正につきましては、県民の体育及びスポーツの振興を図るため、武道競技をはじめとする屋内スポーツの中核施設として大分県立武道スポーツセンターの設置を行うものなどであります。

以上をもちまして、提出しました諸議案の説明を終わります。

何とぞ、慎重御審議のうえ、御賛同いただきますようお願い申し上げます。